

氏 名	川根 伸夫
学 位 の 種 類	修士 (看護学)
学 位 記 番 号	修士第227号
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第3条第1項
学 位 授 与 年 月 日	平成30年 3月 9日
学 位 論 文 題 目	訪問看護を利用する子どもの在宅ケアにおける父親の役割
審 査 委 員	主査 教授 喜多 伸幸 副査 教授 宮松 直美 副査 講師 輿水 めぐみ

## 論文内容要旨

※整理番号	232	(ふりがな) 氏名	かわね のぶお 川根 伸夫
修士論文題目	訪問看護を利用する子どもの在宅ケアにおける父親の役割		
<p>【研究の目的】訪問看護を利用する子どもの在宅ケアにおける父親の役割について明らかにすることであり、父親の役割の責任を助けることになり市民・配偶者・親としての役割を子どもにも少しづつ理解させること、退院指導や家族看護、在宅看護の場で有益な支援の一助となることを目的とする。</p> <p>【方法】対象者は訪問看護を利用する子どもの父親8名である。インタビュー調査を行い、その逐語録をデータとした。質的記述的研究である。逐語録からコーディングを行ない、共通性に従ってサブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。信頼性・妥当性については、メンバーチェックを行ない、指導教官のスーパーバイズをうけて確保するよう努めた。</p> <p>【考察】訪問看護を利用する子どもの在宅ケアの父親は、【妻の介護負担の重さを憂慮】し、【育児時間を確保して妻の負担を軽減】していた。しかし療育を必要とする子どもの育児に参加しながら【仕事と育児の質を維持できるように工夫】をして職場の協力を得ながら育児する時間の捻出をしていることが分かった。さらに、医療的ケアを必要とする子どもの【子どもと安全に生活できるかが気掛かり】であり、きょうだいも家族の中で孤立しないよう意識的に関わりをもつことを意識的に行いながら、養育しながら外的刺激を望み【きょうだいも含めた子どもの発達を懸念】し障がいを享受して【開放的に子どもと過ごす時間を確保】していた。</p> <p>さらには、柔軟な対応の訪問看護に感謝しながら【訪問看護で提供されたケアで安寧な状態を享受】し、訪問看護や周囲の協力を得ながら【楽天的に障がいのある子どもと生活】が過ごせ、訪問看護や周囲の協力を得ながら【周囲の協力と発展的なケアで気楽に育児】できるとともに医療ケアが必要な子どもたちが社会で不自由なく生活が過ごせることを切に願い【父親として余暇を利用して社会に貢献】していた。</p> <p>【総括】訪問看護を利用する子どもも在宅ケアにおける父親の役割とは、1)妻をサポートすること、2)障がいを受け入れて生活すること、3)きょうだいを含め子どもの発達に関与すること、4)訪問看護を十分に利用すること、5)父親として社会貢献すること、と考えていることが分かった。在宅ケアにおける父親の役割を重要視し、苦悩や楽しみを共有するなど父親のサポートをすることが必要であると示唆された。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。